

『いい歯東京』達成度調査の評価及び検証

『いい歯東京』の目標の達成及び今後の課題を検討する資料として、『いい歯東京』の目標を達成していない項目、達成はしているが一層の推進が必要と思われる項目及び前回の東京都歯科保健対策推進協議会及び口腔保健目標評価部会で意見があった項目をライフステージごとに、達成度調査報告書及び議事録より抜粋して資料とした。

1 乳幼児期・学齢期

(1) 【都民の知識と行動指標】

フッ化物配合歯磨剤を使用している者の割合を増加させる。

フッ化物配合歯磨剤を使用している者の割合

	目標	基準値	現状
3歳	70%以上	55.3%	66.8%

【資料】幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査報告(平成26年度)

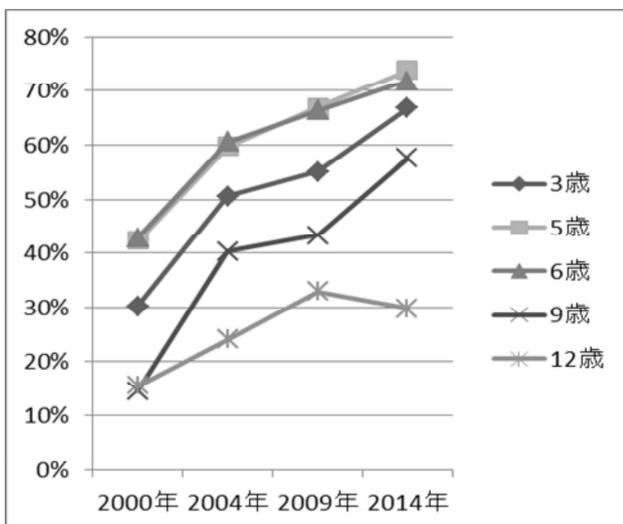
【報告書抜粋】

- フッ化物配合歯磨剤の使用者は3歳、5歳、6歳では7割前後、9歳58%、12歳で30%。
- 歯磨剤を使用しない割合は、低年齢ほど高く、3歳は23%、5歳、6歳は12%。
- 歯磨剤を使っているがフッ化物配合かどうか不明は、9歳が26%、12歳が61%と高かった。
- フッ化物配合歯磨剤使用者の割合の3歳、5歳、6歳、9歳では増加傾向が顕著だが、12歳では2009年以降、減少。

【前回部会での意見】

歯磨剤のフッ化物配合について、学校での普及啓発が必要

フッ化物配合歯磨剤を使用している者の割合の推移



(2) 【都民の知識と行動指標】

甘味飲料をほぼ毎日飲む者の割合を減少させる。

甘味飲料をほぼ毎日飲む者の割合

	目標	基準値	現状
3歳	20%以下	27.8%	26.0%

【資料】幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査報告(平成26年度)

【報告書抜粋】

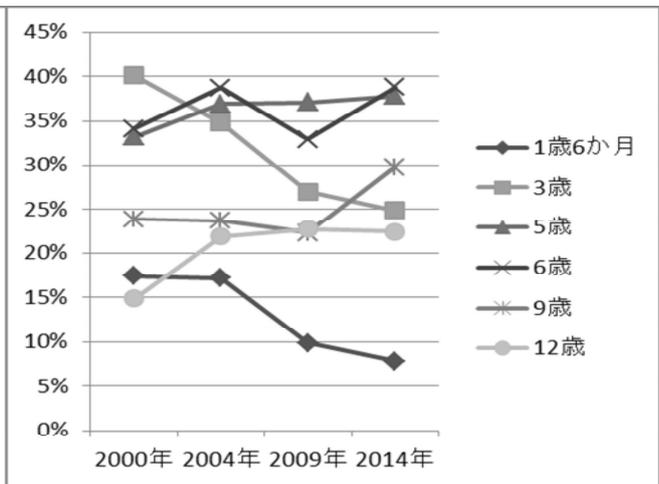
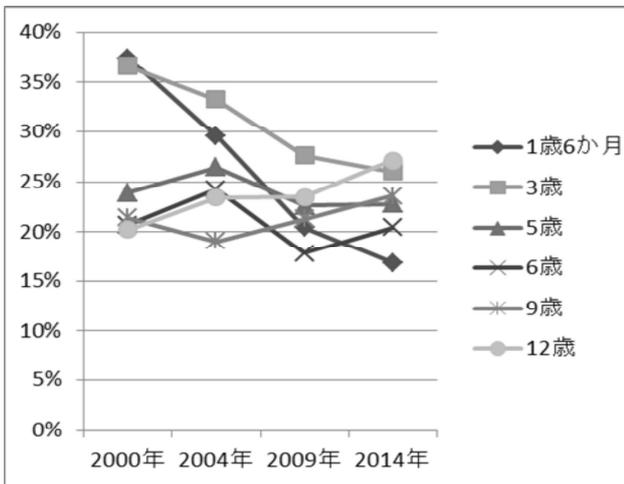
- 甘味食品とは異なり、年齢差はあまり大きくなく、「ほぼ毎日」の割合は1歳6か月が17%とやや低く、他の年齢層はいずれも20%台であった。
- 「ほぼ毎日」の経年的な推移をみると、甘味食品同様、低い年齢層では減少傾向。
- 2000年から2014年で1歳6か月が6割近く、3歳が3割近く減少していた。
- 高い年齢層では甘味食品と同様、増加傾向にあり、12歳では3割以上増加していた。

【前回協議会・部会での意見】

- 他分野との連携を評価し、目標を設定していくことが重要である。
- 年齢が上がり、自立とともに甘味食品・飲料をほぼ毎日摂取している者の割合が増加している。食育との関連や方法論を検討する必要がある。
- 学齢期での教育が必要と考える。

ほぼ毎日、甘味飲料を摂取している者の割合

ほぼ毎日、甘味食品を摂取している者の割合



年齢	2000年	2004年	2009年	2014年	年齢	2000年	2004年	2009年	2014年
1歳6か月	37.4%	29.6%	20.4%	16.8%	1歳6か月	17.4%	17.2%	9.9%	7.8%
3歳	36.6%	33.3%	27.6%	26.0%	3歳	40.1%	34.8%	27.0%	24.9%
5歳	23.9%	26.4%	22.6%	22.8%	5歳	33.2%	36.9%	37.1%	37.8%
6歳	20.7%	24.2%	17.8%	20.4%	6歳	34.1%	38.7%	32.9%	38.8%
9歳	21.4%	19.0%	21.3%	23.6%	9歳	23.9%	23.7%	22.3%	29.8%
12歳	20.2%	23.4%	23.5%	27.1%	12歳	14.9%	21.9%	22.7%	22.4%

(3) 【都民の知識と行動指標】

週に1回以上、子供の歯と口腔を観察している保護者の割合を増加させる。

週に1回以上、子供の歯と口腔を観察している保護者の割合

	目標	基準値	現状
3歳	90%以上	81.3%	81.2%

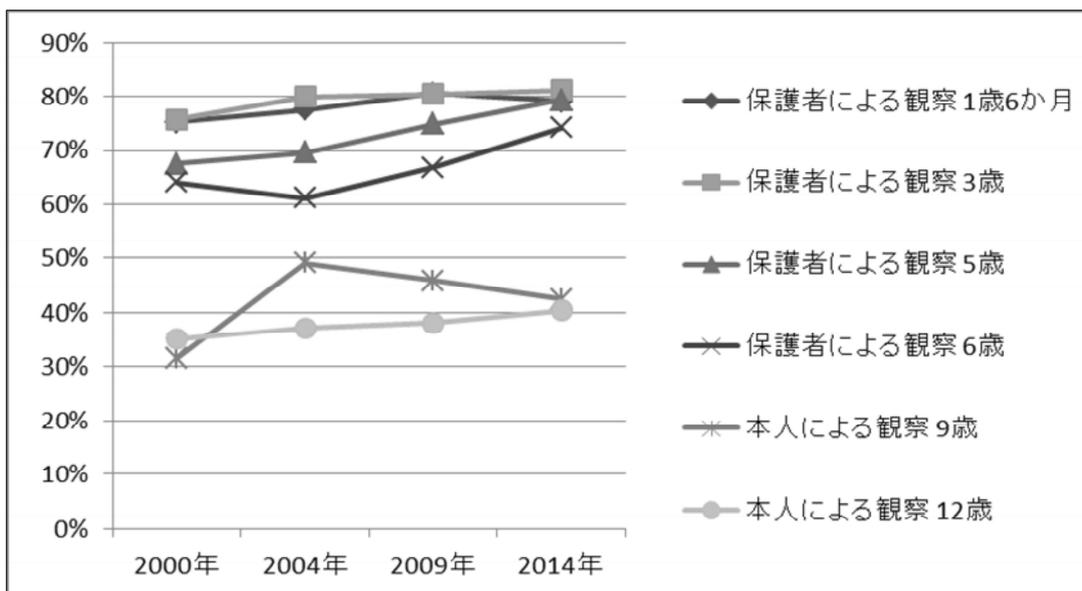
【資料】幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査報告(平成26年度)

【報告書抜粋】

- 1歳6か月、3歳、5歳、6歳は保護者による観察で「週1回以上」は8割前後であったが、9歳、12歳は本人による観察で「週1回以上」は4割強であった。
- 「週1回以上」の保護者による観察は全体的に漸増傾向を示した。
- 本人による観察では9歳が漸減傾向(2004年から)、12歳が漸増傾向(2000年から)と、全体としてみた場合は傾向不定であった。
- 特別区と多摩地区の差はほとんどなかった。

子どもの歯や口の観察をしている保護者、本人による観察の割合の推移

	年齢	2000年	2004年	2009年	2014年
保護者による観察	1歳6か月	75.3%	77.6%	80.6%	79.1%
	3歳	75.7%	80.0%	80.4%	81.2%
	5歳	67.5%	69.6%	74.9%	79.3%
	6歳	64.0%	61.1%	66.8%	74.2%
本人による観察	9歳	31.6%	49.1%	45.8%	42.4%
	12歳	35.1%	37.1%	38.1%	40.4%



(4) 【都民の知識と行動指標】

かかりつけ歯科医を持つ者の割合を増加させる。

かかりつけ歯科医を持つ者の割合

	目標	基準値	現状
3歳	60%以上	45.0%	48.5%

【資料】幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査報告(平成26年度)

【都民の知識と行動指標】

かかりつけ歯科医を持つ者の割合を増加させる。

かかりつけ歯科医を持つ者の割合

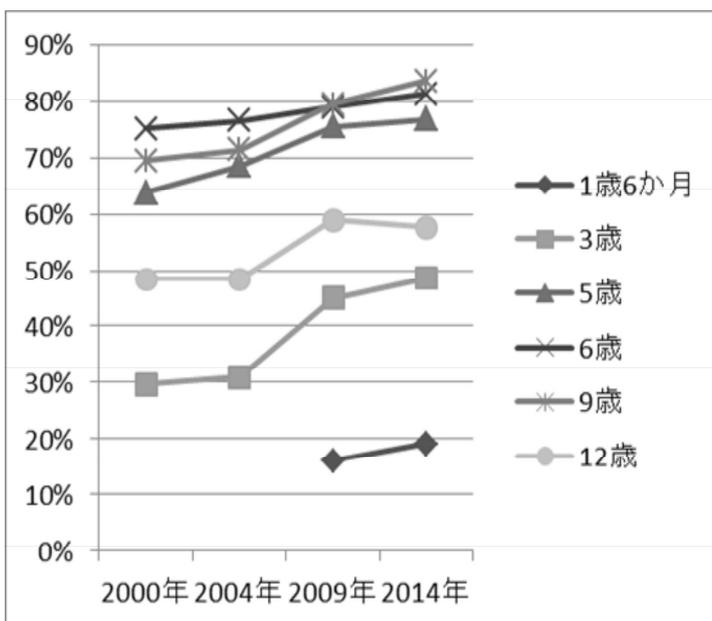
	目標	基準値	現状
12歳	90%以上	59.7%	57.6%

【資料】幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査報告(平成26年度)

【報告書抜粋】

- かかりつけ歯科医院を持つ割合は、年齢による違いが顕著で、5歳、6歳、9歳では8割前後と高かったが、年齢が低い層と高い層で低く、1歳6か月では2割弱、12歳では6割弱であった。
- かかりつけ歯科医院を持つ割合は、2000年以降、全般的に増加傾向にあった。2009年から2014年の推移をみると、3歳では45%から49%と増加が認められたが目標値(60%以上)には及ばなかった。
- 12歳では59%から58%と減少し、こちらも目標値(90%以上)には遠く及ばなかった。
- 特別区と多摩地区を比較すると、特別区のほうが高かった。

かかりつけ歯科医院をもつ者の割合



年齢	2000年	2004年	2009年	2014年
1歳6か月			16.1%	19.1%
3歳	29.7%	31.0%	44.9%	48.5%
5歳	63.8%	68.5%	75.5%	76.8%
6歳	75.1%	76.5%	78.9%	81.2%
9歳	69.4%	71.4%	79.5%	83.5%
12歳	48.4%	48.4%	58.9%	57.6%

(5) 【都民の健康指標】

う蝕のない者の割合を増加させる。

う蝕のない者の割合

	目標	基準値	現状
3歳	85.0%	83.8%	87.4%

【資料】3歳児歯科健康診査結果(平成25年度)

【都民の健康指標】

一人平均う歯数を減少させる。

一人平均う歯数

	目標	基準値	現状
12歳	1歯以下	1.3 歯	0.93 歯

【資料】東京都の学校保健統計書(平成25年度)

【報告書抜粋・前回部会での意見】

- 今回の調査では試行的に3歳児歯科健診時の質問用紙に、未処置歯数・処置歯数の転記をして調査を実施した。
学齢期など他の年齢での実施や、調査項目を吟味することが必要と思われる。
- 12歳児などで、同様の調査(保健行動と口腔内の状況)をすると地域差や関連が見られるかもしれない。

(6) 【都民の知識と行動指標】

ほぼ毎日、1本ずつ丁寧に歯を磨く者の割合を増加させる。

ほぼ毎日、1本ずつ丁寧に歯を磨く者の割合

	目標	基準値	現状
12歳	増やす	47.4%	53.1%

【資料】幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査報告(平成26年度)

【報告書抜粋】

○目標は達成しているが、男女差がみられた。

ほぼ毎日、1本ずつ丁寧に歯を磨く者の割合

	性別	年齢	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	ほとんどない	無回答
			日				
人数	男子	9歳	354	212	230	160	19
		12歳	700	322	224	93	12
	女子	9歳	436	223	227	91	7
		12歳	688	326	167	54	18
	無記入	9歳	8	2	2	1	1
		12歳	3	5	4	1	1
	全体	9歳	798	437	459	252	27
		12歳	1,391	653	395	148	31
%	男子	9歳	36.3%	21.7%	23.6%	16.4%	1.9%
		12歳	51.8%	23.8%	16.6%	6.9%	0.9%
	女子	9歳	44.3%	22.7%	23.1%	9.2%	0.7%
		12歳	54.9%	26.0%	13.3%	4.3%	1.4%
	無記入	9歳	57.1%	14.3%	14.3%	7.1%	7.1%
		12歳	21.4%	35.7%	28.6%	7.1%	7.1%
	全体	9歳	40.4%	22.1%	23.3%	12.8%	1.4%
		12歳	53.1%	24.9%	15.1%	5.7%	1.2%

(7) 【都民の知識と行動指標】

ゆっくりよく噛んで食べるようにする者の割合を増加させる。

ゆっくりよく噛んで食べるようにする者の割合

	目標	基準値	現状
9歳	増やす	59.8%	59.3%

【資料】幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査報告(平成26年度)

報告書抜粋】

- 9歳では59.3%でやや減っており、「いい歯東京」の目標「増やす」は達成されなかった。
- 9歳、12歳における、ゆっくりよく噛んで食べる習慣の状況を示す。「いつも」と「だいたい」を合わせた割合は9歳が59.3%、12歳が52.3%であり、どちらの年齢も女子のほうが高率を示した。

【前回協議会での意見】

- 食事中の行動を変えるのは、難しいのではないかというようなデータがある。
噛ミング30の方法論を検討する必要がある。
- プロセス評価といった手法を考えていく必要がある。

ゆっくりよく噛んで食べる習慣をもつ者の推移(9歳、12歳)

年齢		いつも	だいたい	計
9歳	2009年	17.4%	41.9%	59.3%
	2014年	18.7%	40.6%	59.3%
12歳	2009年	9.6%	40.7%	50.3%
	2014年	9.6%	42.7%	52.3%

(8) 【歯科からの子育て支援】

気になる親子等の支援

気になる親子等の支援をしている歯科医師の割合

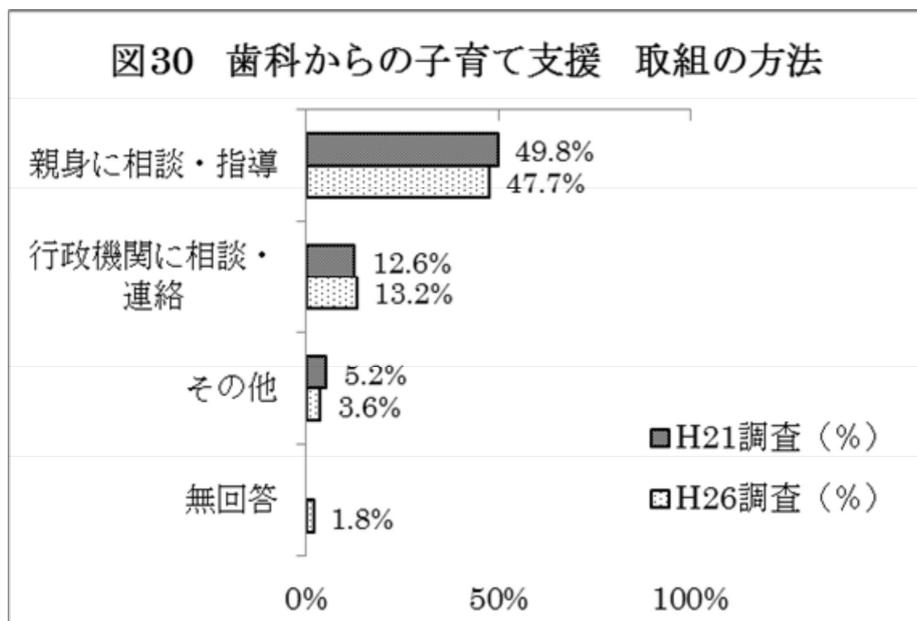
基準値	現状
59.1%(n=812)	55.6%(n=554)

【資料】かかりつけ歯科医機能推進に関するアンケート調査(平成26年度)

【報告書抜粋】

- 「気になる親子」等を支援しているとの回答は、平成21年度調査の59.1%から平成26年度調査の55.6%へと減少した。
- 取組内容を見ても、むし歯の多い幼児や「気になる親子」に対し、親身に相談・指導を行っている施設は減少、「気になる親子」に関し、子供家庭支援センターや保健所・保健センター等の行政機関に相談・連絡している施設は微増したものの13.2%にとどまり、歯科医療機関として要支援家庭発見と適切な支援につなぐ役割への認知の普及をより推進する必要性がうかがわれた。

支援している場合、その取組(複数回答可)



2 成人期

(1) 【都民の健康指標】

進行した歯周病に罹っている者の割合を減少させる。

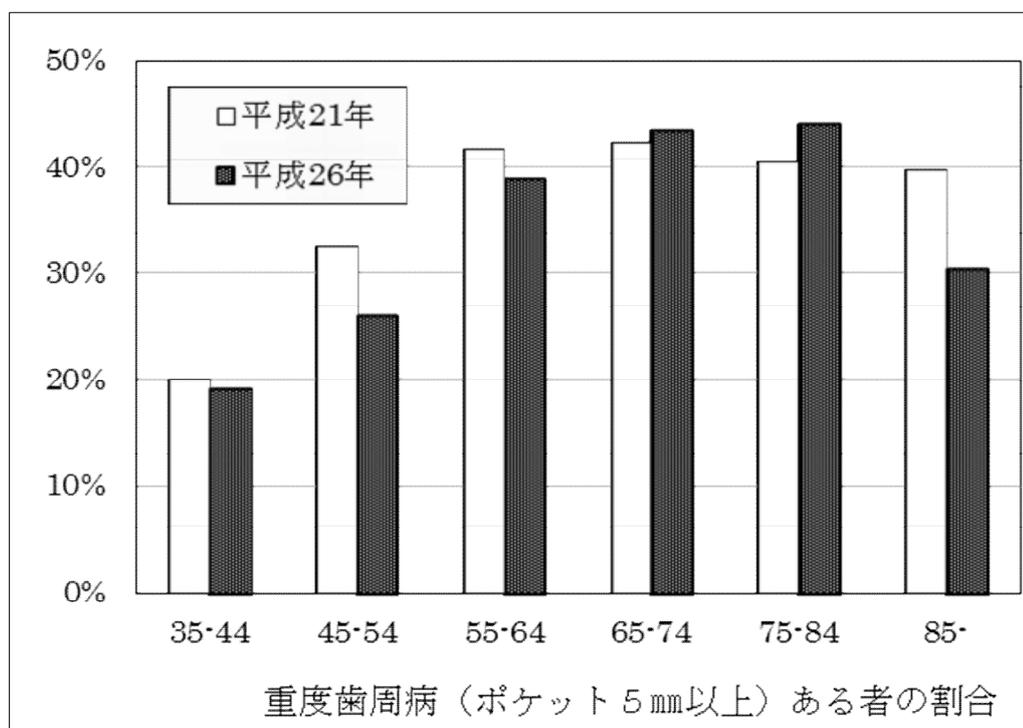
進行した歯周病に罹っている者 (CPコード3以上) の割合

	目標	基準値	現状
40歳 (35歳 ~ 44歳)	18%以下	20.1%	19.3%

【資料】東京都歯科診療所患者調査 (平成 26 年度)

【報告書抜粋】

- 35～64歳までと85歳以上で、前回 (平成 21 年度調査) よりも重度歯周病のある者の割合は減少した。
- 若い年代で減少したことは、歯周病に対する周知と早期治療が奏功している結果と考えられる。
- 特に 85 歳以上では 39.7% から 30.4% へと改善した。
- 一方、65～74 歳はほぼ同じであるものの、75～84 歳では増加が認められた。
- 65～84 歳の間には重度歯周病により歯を喪失している可能性が考えられる。



(2) 【都民の知識と行動指標】

8020を知っている者の割合を増加させる。

8020を知っている都民の割合

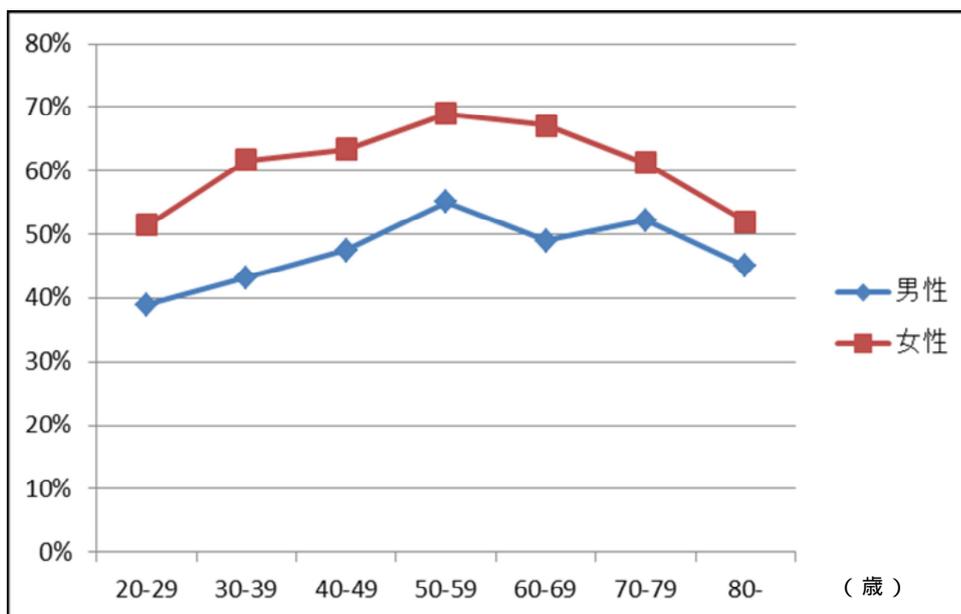
	目標	基準値	現状
20歳以上	増やす	57.6%	57.1%

【資料】東京都歯科診療所患者調査(平成26年度)

【報告書抜粋】

- 「8020運動」を知っている者は、他の歯科と関連する疾患についても認知度が高いことがうかがわれる。今後も8020運動の知識普及を図るべきであろう。
- 特に、20歳代では「知らなかった」が半数を超えており、若年層へのアプローチが十分でないを考える。
- 「8020運動」についても、全ての年代において女性の方が男性より知っている者が多かった。

8020を知っている者の割合



(3) 【都民の知識と行動指標】

糖尿病・喫煙が歯周病のリスクであることを知っている者の割合を増加させる。

糖尿病が歯周病のリスクであることを知っている者の割合

	目標	基準値	現状
20歳以上	増やす	42.3%	49.7%

【資料】東京都歯科診療所患者調査(平成26年度)

喫煙が歯周病のリスクであることを知っている者の割合

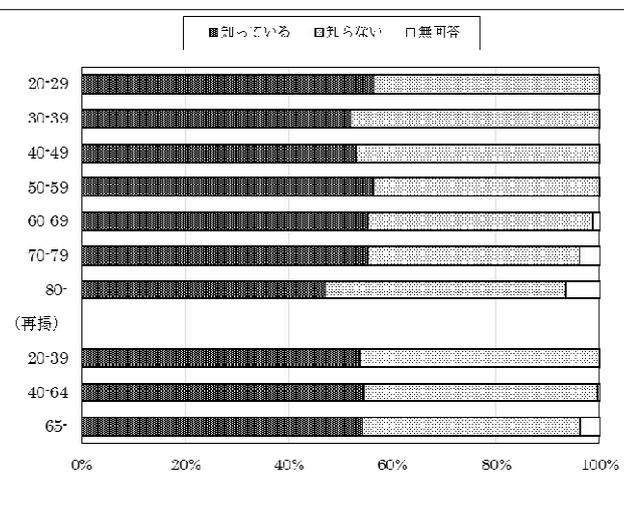
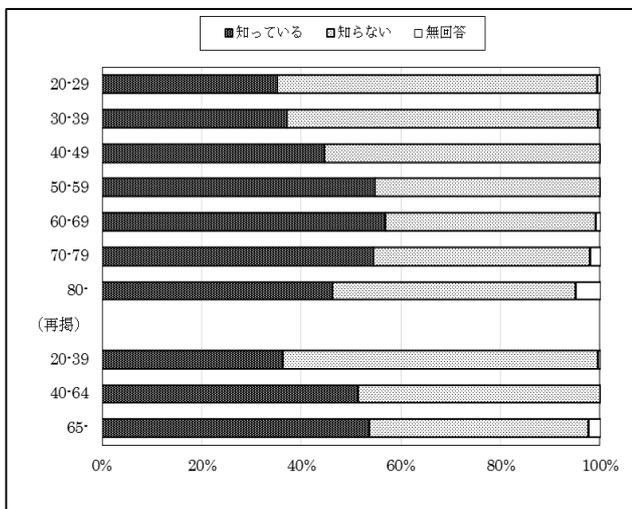
	目標	基準値	現状
20歳以上	増やす	54.4%	54.2%

【資料】東京都歯科診療所患者調査(平成26年度)

【報告書抜粋】

- 糖尿病が歯周病のリスクであることを知っている者の割合は、20歳以上で前回(平成21年度調査)の42.3%から49.7%へと増加し、「いい歯東京」の目標を達成した。
- 生活習慣病やメタボリックシンドロームに関する知識の普及啓発も相まって、糖尿病と歯周病の関連についても順調に知識の普及が進んでいるものと思われる。
- 喫煙が歯周病のリスクであることは、半数強の認知度でありながら、ほぼすべての年代で横ばいであり、さらなる知識の普及が必要であろう。
- ただし、喫煙率も21.6%(成人男性33.7%、成人女性9.7%)(平成25年国民生活基礎調査)と年々減少していることも考慮すべき要素の1つであろう。
- 学齢期から正しい知識の普及が重要であると考えられる。

糖尿病が歯周病のリスクであることを知っている者の割合 **喫煙が歯周病のリスクであることを知っている者の割合**



(4) 【都民の知識と行動指標】

週に1回以上、フロスや歯間ブラシを使用している者の割合を増加させる。

週に1回以上、フロスや歯間ブラシを使用している者の割合

	目標	基準値	現状
40歳(35歳～44歳)	80%以上	62.3%	62.0%

【資料】東京都歯科診療所患者調査(平成26年度)

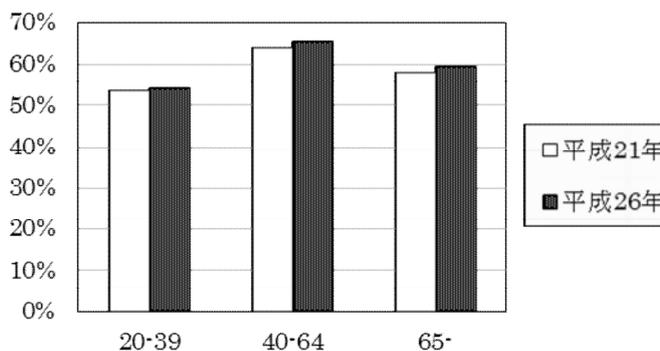
報告書抜粋】

- デンタルフロスや歯間ブラシなどの歯間部清掃用器具を用いた清掃習慣は、ほぼ毎日行う者のピークは60～69歳、次いで70～79歳であったのに対し、週に1～2日までを含めると50～59歳が最頻値であった。
- 40歳代から歯間部清掃用具の使用ニーズが高まるのに対し、日常的に使用しなければならなくなるのは高齢者になってからという結果であった。
- デンタルフロスと歯間ブラシをわけると、使用する年代が分かれた可能性も考えられる。
- 歯周病予防の観点から、セルフケアにおける歯間部清掃用具使用により一層の指導やプロモーションが重要であると考えます。
- 男性よりも女性の方が歯間部清掃用具の使用率が高い傾向が見られた。

週1回以上のデンタルフロスや歯間ブラシを使うことがある者の割合

(%)

年齢階級	平成21年	平成26年
20-39	53.4%	54.0%
40-64	64.2%	65.3%
65-	58.3%	59.5%



週1回以上のデンタルフロスや歯間ブラシを使うことがある者の割合(平成26年度)

	ほぼ毎日	週に3-4日	週に1-2日	ほとんどない	無回答
男性合計	1,084 25.3%	345 8.0%	736 17.2%	2,083 48.5%	43 1.0%
女性合計	2,294 37.8%	727 12.0%	1,143 18.8%	1,817 30.0%	84 1.4%

(5) 【都民の知識と行動指標】

かかりつけ歯科医で定期健診や予防処置を受けている者の割合を増加させる。

かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合

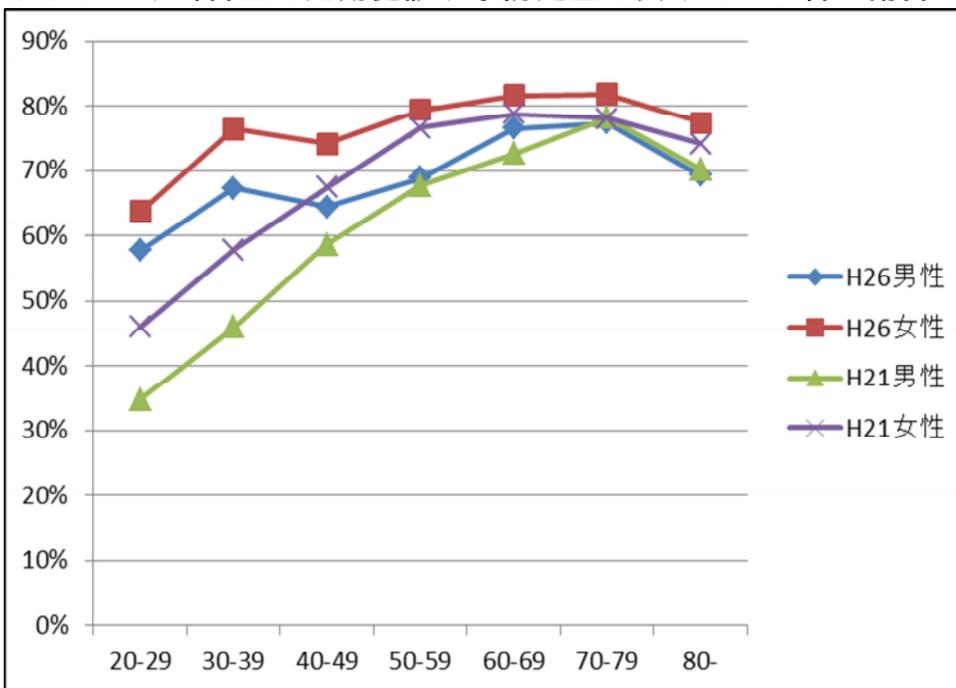
	目標	基準値	現状
40歳 (35歳 ~ 44歳)	70%以上	59.6%	71.9%

【資料】東京都歯科診療所患者調査 (平成 26 年度)

【報告書抜粋】

- かかりつけ歯科医で定期健診や歯石除去等の予防処置を受けている者の割合は、すべての年代で前回 (平成 21 年度調査)より増加した。
- 特に 20 ~ 39 歳で顕著で、2割程度増加した。40 歳 (35 ~ 44 歳)では 71.9%であり、いい歯東京の目標値 70%以上を達成した。
- ただし、すべての年齢層で女性の方が男性より高い傾向であり、40 歳 (35 ~ 44 歳)では女性の 75.3%に対し、男性は 66.5%であり 70%に届かなかった。働き盛りの年代の男性の定期受診を促す方略が必要であると考えられる。

かかりつけ歯科医で定期健診や予防処置を受けている者の割合



3 高齢期

(1) 【都民の健康指標】

歯・口の状態についてほぼ満足している者の割合を増加させる。

歯・口の状態についてほぼ満足している者の割合

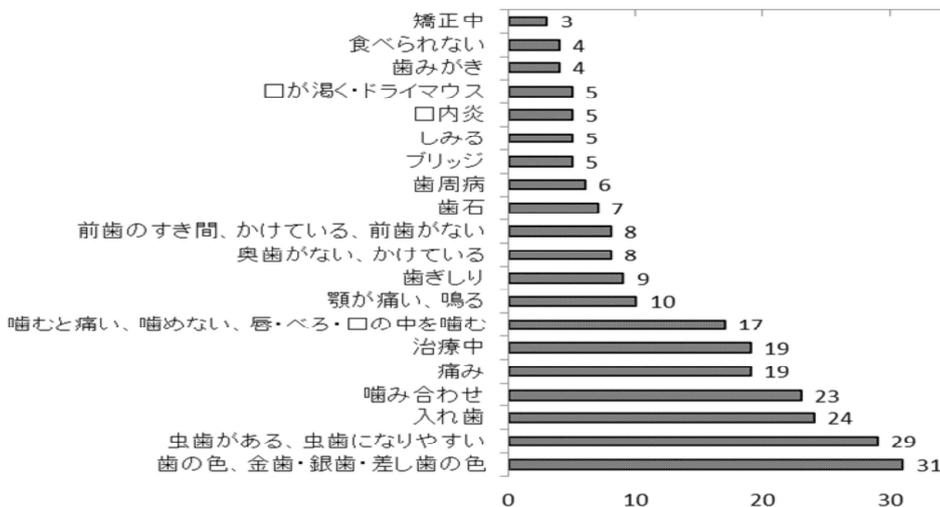
	目標	基準値	現状
80歳以上	増やす	57.9%	54.8%

【資料】東京都歯科診療所患者調査(平成26年度)

【報告書抜粋】

- 自由記載で最も多かったのは、「歯の色、金歯・銀歯・差し歯の色」であった。治療前の問題か治療後の問題かは本調査では明らかでないが、見た目の問題に関心が高いことがうかがわれた。
- 噛む、味わう、飲み込む、話すことに不自由があると回答した者は、20～39歳で3%程度と極めて低く、年代が上がるにつれて増加した。それでも80歳以上で2割に満たなかったのは、対象者が歯科医院に来院可能であることによる影響が考えられる。
- 食べ物が歯と歯の間にはさまると回答した者は、年代・性別を通じて他の質問項目よりも高い傾向であり、平均で57.5%と半数を超えた。歯科診療所を受診している患者を対象とした調査であるにも関わらず、満足度が最も低かった理由として、この質問項目については様々な原因が考えられ、原因によっては治療も困難であることが考えられる。また、治療中の問題である可能性も伺われる。
- 男女間の差は、概ね認められなかった。

(1) 歯や口腔の満足度 —9) その他
主な自由記載項目



(2) 【都民の知識と行動指標】

よく噛む（一口 30 回程度）ようにしている者の割合を増加させる。

よく噛む（一口 30 回程度）ようにしている者の割合

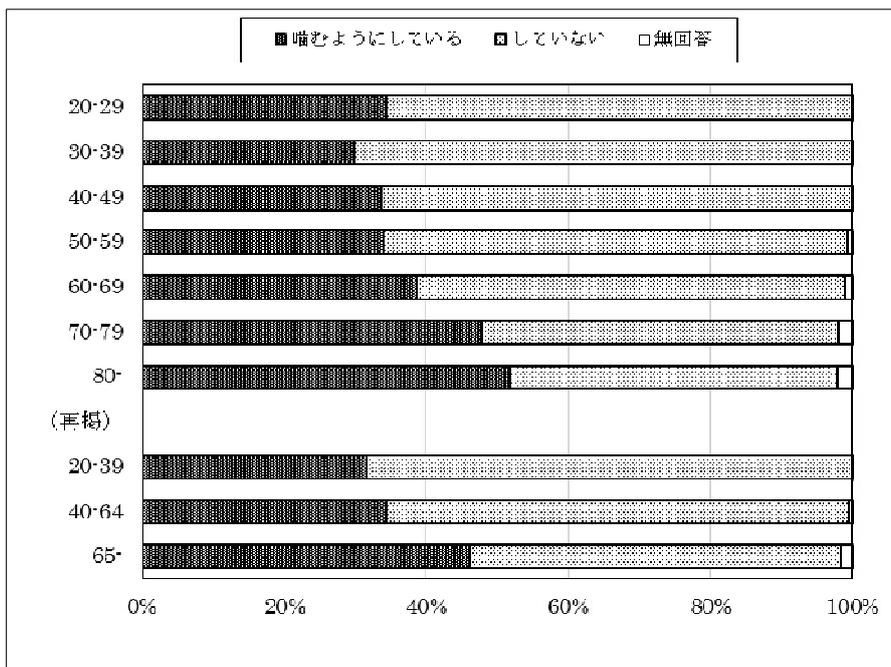
	目標	基準値	現状
65歳 (60歳 ~ 69歳)	増やす	41.4%	38.8%

【資料】東京都歯科診療所患者調査 (平成 26 年度)

【報告書抜粋】

- 65歳 (60～69歳)でよく噛む者の割合は38.8%で、前回 (平成 21 年度調査)の 41.4%を下回り、いい歯東京の目標を達成しなかった。
- よく噛む（一口 30 回程度）ようにしていると回答した者は、前回 (平成 21 年度調査)の 39.4%から38.4%へとわずかに減少した。
- すべての年代でわずかに減少している。
- 男女とも減少しており、女性の方が男性よりもよく噛む者の割合が高い傾向も前回 (H21 調査)と同じであった。
- 男女とも30歳代が最も噛むようにしている者の割合が少なく、仕事や子育てなど多忙により食への関心が低下していることが考えられる。
- 一方で、同年代は子育て世代であることから、食育への取り組みが親子双方にとって効果的な方略であると思われる。

よく噛む（一口 30回程度）習慣について



(3) 【都民の知識と行動指標】

口腔ケアが誤嚥性肺炎を予防することを知っている割合を増加させる。

口腔ケアが誤嚥性肺炎を予防することを知っている割合

	目標	基準値	現状
20歳以上	増やす	31.6%	38.5%
全ての職員が知っている介護保険施設	増やす	46.5%	76.0%

【資料】東京都歯科診療所患者調査 (平成 26 年度)
介護保険施設等における口腔ケア実態状況調査 (平成 26 年度)

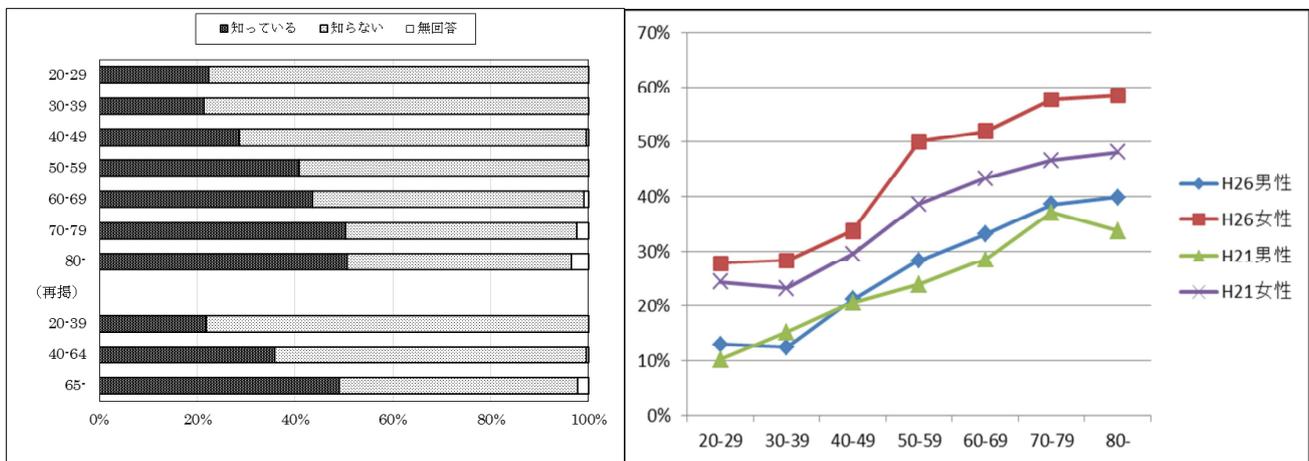
報告書抜粋】

- 歯や入れ歯、舌などを清潔にすることが誤嚥性肺炎を予防することを知っている者の割合は、前回 (平成 21 年度調査) と比してほぼすべての年代で増加した。
- 65 歳以上ではほぼ半数が知っていると回答しており、知識の普及が進んでいる。
- 一方、すべての年代で女性の方が男性より知っている割合が高かった。

【前回部会での意見】

- 男女差が著しい

歯や入れ歯の (口腔) 清潔と誤嚥性肺炎との関係を知っている者



(4) 施設における口腔ケアマニュアルの有無

	基準値	現状
口腔ケアマニュアル有	58.5%	47.1%

【資料】介護保険施設等における口腔ケア等実態調査(平成21年度・平成26年度)

報告書抜粋】

- 口腔ケアマニュアルがあると回答した施設は47.1%で、前回(平成21年度調査)の58.5%から減少した。施設職員等への口腔ケアに関する知識の普及に反して、マニュアルは整備されない傾向がうかがわれた。
- 一度作成したマニュアルが使用されなくなった場合を考えると、現場でマニュアルがなくとも口腔ケアに対応が可能になっている状況が予想される。
- また、前回調査(平成21年度調査)から対象施設数が大きく増えており、その増えた施設にマニュアルが整備されていない可能性も考えられるが、この場合も、施設側において現場対応に問題がないことが伺われる。

口腔ケアマニュアルの有無(平成26年度)

	全体		ある		ない		無回答	
特別養護老人ホーム	231	100%	130	56.3%	83	35.9%	18	7.8%
養護老人ホーム	15	100%	5	33.3%	9	60.0%	1	6.7%
ケアハウス	30	100%	6	20.0%	18	60.0%	6	20.0%
介護老人保健施設	139	100%	82	59.0%	50	36.0%	7	5.0%
認知症グループホーム	281	100%	105	37.4%	132	47.0%	44	15.7%
有料老人ホーム	380	100%	181	47.6%	154	40.5%	45	11.8%
その他	8	100%	2	25.0%	5	62.5%	1	12.5%
施設合計	1,084	100%	511	47.1%	451	41.6%	122	11.3%
訪問看護ステーション	472	100%	131	27.8%	242	51.3%	99	21.0%

口腔ケアマニュアルの有無(平成21年度)

	全体		ある		ない		無回答	
特別養護老人ホーム	144	100%	73	56.3%	62	35.9%	9	7.8%
養護老人ホーム	12	100%	3	33.3%	7	60.0%	2	6.7%
ケアハウス	6	100%	2	20.0%	4	60.0%	0	20.0%
介護老人保健施設	29	100%	18	59.0%	10	36.0%	1	5.0%
認知症グループホーム	23	100%	8	37.4%	15	47.0%	0	15.7%
有料老人ホーム	220	100%	150	47.6%	59	40.5%	11	11.8%
その他	7	100%	4	25.0%	3	62.5%	0	12.5%
施設合計	441	100%	258	58.5%	160	62.0%	23	14.4%
訪問看護ステーション	218	100%	98	45.0%	109	50.0%	11	5.0%